



「まつりは市民みんなのもの。一人でも多くの方が参画することが重要だと考えています」と語る赤谷さん。97名が所属する酒田青年会議所の第47代理事長として、酒田まつりの運営の一端を担います。

昨年度、同会議所が企画運営を担当した宵祭りは大変好評で、多くの市民が会場の日和山公園を訪れました。しかし、赤谷さんは成功を踏まえて、さらなる先を見据えています。「ステージでのイベントと合わせて、まつりに関わる人を増やすことが重要だと考えています。市民主導型の

まつりはみんなのもの



今月の人 Akatani Kazunori

赤谷 一典 さん(北新橋一丁目)
公益社団法人 酒田青年会議所第47代理事長

さかたの風

まつりを実現するための運動を続けていきます」と、赤谷さんが語るように、同会議所は今年度新たな取り組みを始めます。

高校・大学生などを対象に「魁さきがけ！まつり塾」を開校。50人の塾生が、同会議所の指導・助言を受けながら酒田まつりの企画運営に参画します。さらに、昨年の市立第四中学校に続き、県立酒田光陵高校がミニ山鉦を製作し、山車行列を盛り上げます。

「若い世代への取り組みはあくまで第一歩。将来的には広い年代の市民の皆さんに、まつりに参画してほしいですね」

まつりの先に見えるもの

「今年の宵祭りは「地元のみつり」をテーマに、さまざまな伝統芸能が繰り広げられます。市民の皆さんの気持ちや宵祭りで盛り上げ、本祭りにつながるかと考えています」と、まつりの構想を語ってくれました。

「私たちの運動でより良い故郷を創っていききたい。それは酒田まつりでも同じことです。酒田まつりを通じて酒田の未来を創造していきたいと思っています」

赤谷さんの穏やかな表情の向こうに、酒田さかたの風を感じました。

フォトギャラリー

思い出のまち 13



子ども三輪車大会

酒田市広報昭和41年5月16日号の表紙写真。5月5日の子どもの日に行われた「子ども三輪車大会」の様子です。会場の本間美術館には1,000人を超える親子連れが訪れました。同大会は、現在も子どもまつりのイベントの一つとして日和山公園で行われており、今年は5月5日(祝)に開催されます。

昔ながらの酒田の味
酒田市食生活改善推進員が紹介します

酒田の味

36

春先にはゼンマイの若芽が顔を出します。手軽に料理できる水煮を使っ、春の味を楽しんでみてはいかがでしょう。

ゼンマイの炒め煮

【材料】4人分

- ・ゼンマイ(水煮) ……160g
 - ・糸コンニャク ……160g
 - ・ニンジン ……40g
 - ・薄揚げ ……20g
 - ・ごま油 ……大さじ1
- A
- 砂糖 ……大さじ2
 - しょうゆ ……大さじ2+1/2
 - だし汁 ……1カップ
 - ・白炒りゴマ ……小さじ2

【作りかた】

- ①ゼンマイはさつと洗い水気を切って4分の長さ切る。
- ②糸コンニャクは4分の長さに切り、2分～3分ゆであくを抜く。
- ③薄揚げは油抜きした後、縦半分に切り5分の幅に切る。
- ④ニンジンは4分の長さで太めの千切りにする。
- ⑤鍋にごま油を熱し、ゼンマイ・糸コンニャク・ニンジン・薄揚げを炒め、油を全体にまわす。
- ⑥Aを加えて汁気がなくなるまで、時々混ぜながら煮る。
- ⑦器に盛り、ゴマをふる。



食生活改善推進員からの

ワンポイント

フライパンでも手軽に作れる一品です。



子育て講座



●お問い合わせ／子育て支援課子ども育成係 ☎26-5734

赤ちゃんは語学の天才

東北公益文科大学教授
國眼 眞理子 先生

マーちゃんは生まれて3か月半。近頃盛んに、泣き声とは違う声でしゃべりするようにになりました。言葉という存在を知らない赤ちゃんは、どのようにして言葉を身に付けていくのでしょうか。

例えば赤ちゃんに向かって「オナカガスタノカナ」と語り掛けたとします。言葉の存在を知っていれば、「オナカ」「ガ」「スイタ」「ノ」「カナ」と分けることができます。でも赤ちゃんは、どこで区切られるのかを知りませんし、そもそも名詞や助詞、動詞などの文法を知っているわけではありません。

また「マンマデスヨ」と言われても、「マンマ」がスプーンに載せられたおかゆのことなのか、スプーンのことなのか、あるいは「マンマ」をくれるママのことなのか分かりません。

せん「マンマ」だっておかゆであったり、バナナだったり、お魚だったりといういろいろです。

こうして考えると、全く無の状態から、言葉を身に付ける赤ちゃんの力には驚くばかりです。周りの人から語り掛けられる音の中から「マ」「ン」「マ」の三つの音がいつも一緒に使われる塊であることを見つけ出し、それはいつも決まった状況の中で使われ、やがてそれが意味のあるものであることを理解していきます。

赤ちゃんは周りの変化を敏感に受け止め、その変化の中に規則性を見つけるすばらしい能力を持っています。単に大人の模倣をしているわけではありません。周囲の大人の丁寧な語り掛けを手掛かりにして、赤ちゃんは自分の力で言葉を学んでいきます。



●お問い合わせ／市介護保険課予防支援係 ☎26-5755

高齢期をより良く生きる

終活^{しゅうかつ}という言葉をご存じですか。終活とは人生の終わりのための活動の略で、就活や婚活の派生語として広がったようです。終活には単に自分が亡くなった時の葬儀や相続の準備という意味だけでなく、「終焉^{しゅうえん}」を見つめて準備をすることで、今をより良く生きようという意味も含まれているようです。

65歳からの暮らし

2015年の日本の人口推計では、65歳以上がいる世帯の約6割が単身

たは夫婦のみの世帯と見込まれています。長寿国日本では高齢期の大半を一人で暮らすという人も珍しくありません。また年を重ねると病気、障がい、介護といった心配が増えますが、本市でも75歳以上の方の約3割が要介護認定を受けています。高齢期の生活を見据え、病気や介護の状態になったらどうするかを考えておくことも終活の一つです。

介護予防が大切

高齢期を元気に過ごすポイントの一つに介護予防があります。例えば、普段の生活の中で、以前まで楽にできていた事を控えたり、やめたりしていませんか。心身の老化に伴う機能低下は「年だからしょうがない」と対応を後回しにしがちですが、高齢期はさまざまなことから衰弱が進行してしまうことがあり油断は禁物です。

やってみたい事や続けたい事を実現させるためには心身の状態を保つことが大切です。何かを始めたくなる春に、介護予防の取り組みを始めてみませんか。今をより良く生きることの先に終活があるのです。